



山形南高(山形二中、二高) 東京同窓会報

発行人 平成29年11月4日発行
千代田区平河町2-6-3
山形県東京事務所内
山南東京同窓会事務局
毛利 昭
編集人代表 土田 和男



「幻の国歌」

〜恩師芳賀秀次郎先生を偲んで〜



山形南高東京同窓会

会長 毛利 昭

演歌「赤城の子守唄」などで御馴染みの国定忠治が、住み慣れた赤城山を追われ旅に出た際に同行した子分たちの葛藤を描いた、菊池寛の名作「入れ札」の朗読を聴いたのは、高校二年の頃だった。思えば今から半世紀以上も前のことになるが鮮明に覚えている。朗読してくれたのは当時国語科の教諭であった芳賀秀次郎先生(1915〜1993)である。芳賀先生は昭和19(1944)年3月に赴任され、昭和42(1967)年3月まで南高の国語の教諭として、23年もの長きに渡り我々が指導を頂いた恩師である。そ

の、芳賀先生が「君が代」に代わる「新国民歌・われら愛す」を作詞されていたことはご存知だったでしょうか。残念ながら「われら愛す」は、当時の文部省が「君が代」を強く推したため国歌にはなりませんでしたが、その様な先生に教えを請うていた事はこの上ない喜びでもありません。

東京同窓会報第十二号(平成27年11月14日発行)の編集後記に、幻の国歌となった「われら愛す」の顛末記が記載してある。当時編集を担当していた小松栄三郎副会長が情報を纏めて記載したものが、この記事を読むまで私はこの事実を知りませんでした。

その後私なりに調査したところ「終戦直後、国民歌を作ろうという動きが出て、朝日新聞、毎日新聞などが公募した。壽屋(現サントリー)も、日本の国を愛する我々が希望と誇りを持って歌える歌を公募した。歌詞に5万点、曲に3千点の応募があり、山田耕筰やサトウハチローらの審査で「われら愛す」が選ばれた。作詞者は1915(大正4)年に白鷹町で生まれた高校教師の芳賀秀次

郎さんだ。山形東高、山形南高などで教え、長井高校長も務めた。1993(平成5)年に死去した。(後略)(朝日新聞 2008年1月31日 山形全県版)なる記事を入手することが出来た。

更に、関西山形南高コバルト会事務局の竹内俊輔氏(南高16期)より詳細な資料が届けられた。それによれば、改築なった新校舎に隣接する「記念講堂」のそばに「芳賀秀次郎先生の詩碑」が建立されており、詩には「今日ぼくは一羽の海鳥となつて秋ちかい列島のそらを飛ぼう」と記され、「海鳥の碑」には「芳賀秀次郎先生は母校創成期の昭和十九年から二十三年間、国語教師として在職された。その間、わが国戦後の混沌に陽光を投ずる『新国民歌・われら愛す』の作詞者として、私たち生徒に大いなる感動を与えられた。先生はまた、『鐘について』他多くの詩集を著された詩人として活躍され、後年、齋藤茂吉文化賞の栄に浴された。私たちは芳賀先生をはじめ多くの恩師の薫陶を受け、蛍雪の時を共に過ごし得たことを誇りとして、その後の人生を歩んできた。こ

の青春の感動を与えてくれた母校と恩師への無量の謝意を表し、青春のモニュメントとして茲に詩碑を建てる。平成九年十二月吉日 芳賀秀次郎先生の詩碑をつくる会」なる文面が記されていると言う。一介の言葉えれば失礼だが、国語の教師に対し、卒業生たちが詩碑を建立した例は全国的にも少ないであろう。私を含めた多くの卒業生が、芳賀先生により若き血に火をつけられた感を持つからであろう。

今では、漫画は世界に通用する表現の一つとして脚光を浴びているが、半世紀以前はその地位は高くは無かった。その様な折、芳賀先生が「漫画についてどの様に考えるか」と言う課題で作文を科されたことがあった。それに対し「漫画も気持ち揺らす表現は可能だと思ふ」などと記載したことを思い出した。どの様な評価を与えられたかは記憶に無いが、得意分野の「詩歌」以外にも表現のあり方を模索していたのではないかと考えられる。そこには、現状に満足することなく常に新しいことに挑戦する、南高健児の原点が見えるようで嬉しい限りである。我々は芳賀先生の詩の心を理解するとともに、この精神を糧としてこれからを歩んで行かなければならないとの決意も新たにされた次第である。本紙をまとめるに当たり、貴重な資料を提供していただいた、関西山形南高コバルト会事務局の竹内俊輔氏に心からの謝意を表明し文を閉じる。

南高同窓会総会・ 祝賀会が盛会に開催



山形南高同窓会
会長 荒井 満

平成29年度の南高同窓会の総会が、5月26日(金)午後5時30分から山形市のパレスグランデールで開催されました。提案しました議案も、すべて満場一致で承認いただき、無事終了しました。

午後6時30分から、祝賀会の開催となりました。今年度の当番幹事は、南高33回卒(燦々会)と南高53回卒(なごみの会)で、1年前から山本修司実行委員長を中心に、いろいろと準備いただきました。

今年のテーマは、『コバルトの空に想い馳せ、私達が永遠に持ち続けているもの』『コバルトイズム』とし、ポスター・チケット・総会資料すべてコバルト一色で統一されました。祝賀会への出席者は、各学年幹事のチケット販売のご協力もあり、主催者発表で約750名もの参加をいただき、盛大に開催することができました。

今年、祝賀会の目的は何なのかと実行委員会と協議を重ねた結果、同級生・先輩・後輩と旧交を温め合い、南高の3年間に戻り、『コバルトイズム』を再確認するのが目的で

あると認識し、各挨拶は短くするなど、セレモニーは短時間で終わし、交流の時間をできるだけ長くしようと試みました。結果、昨年まではセレモニーが1時間ほどでしたが、今年は30分で終了し、乾杯をするのが出来ました。

乾杯のあと、現役応援団とブラスバンドのコラボによる「大進撃」が披露され、気持ちは南高の現役時代に戻り、会場は一気に盛り上がり、あちこちでコバルト談義に花が咲きました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、フィナーレに「勝利の拍手」と第一応援歌「空はコバルト」を大合唱し、閉会となりました。その後、用意された山形駅行と七日町行のバスで、各学年ごと山形の夜の街の2次会場に向かい、散会となりました。

今年の祝賀会は、彩を飾るアトラクションもありませんでしたが、まさに南高の校是である「質実剛健」そのものであったと思います。今後の祝賀会のあり方を示されたのではないかと思います。来年は5月25日(金)に開催が決まっております。

山形南高東京同窓会も毎年盛会に開催されておりますが、是非本部の同窓会に足を運んでいただき、多くの同窓生と旧交を温め合ってくださいと思います。

結びに、南高東京同窓会のみならずのご発展と、毛利会長さんをはじめ会員の皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。

本校の教育について



山形南高
校長 奥山 雅信

東京同窓会の皆さまには、日頃から本校教育に対しまして、ご支援とご指導を賜り心から感謝申し上げます。

赴任以来、生徒たちと学校生活を共に感じていることは、「生徒は熱くて友達思いで、クラスやクラブの団結・絆を重んじ、皆で頑張っている」という雰囲気を持った集団で、加えて当事者意識を併せ持ち、将来社会のリーダーになる存在である」ということです。

そして、そういった人材を育成していくためには、「1つには、『南高の学校文化を大事にすること』と考えております。高校には各学校特有の校風や伝統がありますが、本校においては、「文武両道」の校是と「自主・自律の精神」のもと醸成されてきた文化がありますので、これを大事にすることです。この文化を脈々と受け継いでいる南高祭では、今年

も、三原則のもと、ウォーターボーイズ、書道パフォーマンスや復興支援企画など、生徒自ら企画し、来校者数は3,845人の過去最高でした。

2つには、「高いレベルでの文武両道をめざす教育」に他ならないと考えています。昨年は、バスケットボール部がインターハイで3位入賞する快挙がありました。また、進学面においても、国公立大学に県内最多の156名合格し、そのうち、東北大には県内で2番目、山形大と新潟大は1番でありました。

進学面と部活動面で実績を残すことは大変なことですが、将来的に生徒数の減少にともなって、高校再編が避けて通れない時代がやって来ます。そういう時代や社会になっても、「南高が南高であり続ける」ための一番の施策は、高いレベルでの文武両道を実践することに他ならないと考えているからです。

そのために、教職員一同、力を合わせて頑張っておりますので、皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



連載シリーズ

「身近な薬用植物あれこれ」

その5

山形で空気神社と生薬・キハダに触れ合う

南高12回卒 奥山 徹

朝日町の山の頂に5m四方のステンレス製の鏡、主祭神が空気であると言われているユニークな「空気神社」が創建されており、(1990年・平成2年)。町では世界環境デーに合わせて、6月5日を「空気の日」に制定しております。

昨年の初夏に、空気神社を見学すべく足を延ばした際に、「キハダ」と触れ合うことが出来ましたので、山形が誇れる「空気神社」と薬用高木である「キハダ・黄檗」を話題に取り上げます。



『やまがた発！旅の見聞録』
(2014年10月放映：佐藤弘道レポーター)



『朝日新聞』(2016年6月14日版で紹介)

「キハダ」(黄肌)は、山形県内でも植林されているミカン科の大本(樹高10m〜20m)、初夏には円錐花序の小さい黄色い花を付け、秋には果実が黒褐色に熟します。樹皮はコルク質で内樹皮は鮮黄色、樹皮からコルク質を取り除いて乾燥させたも

のが生薬の「黄檗(おうばく、黄柏)」で、薬用のほか染料の材料としても用いられます。



次にキハダの生薬・医療用の役割を述べます。アルカロイド成分のベルベリンはアセチルコリンの作用を強め、副交感神経の働

きを高め、消化液の分泌などを盛んにして胃や腸の運動を盛んにすることから、重要な苦味健胃薬です。ベルベリンは、抗菌作用があり、腸内の異常発酵や悪酔いにも有効です。キハダの粉末に塩を混ぜて歯を磨くと歯槽膿漏や歯肉炎にも効果があります。

読者の皆様は、キハダ入り製品としての「陀羅尼助」、「百草顆粒」や「百草湿布薬」などをご存知と思われま。また、塩酸ベルベリンの効能を上手に活用した目薬があります。長野市の笠原忠兵衛薬局では、キハダ入り「雲切目薬」(第3類医薬品)を発売しております。秘伝薬「雲切目薬」の創業は天文12年



左：御岳百草丸と御嶽山百草湿布薬 右：雲切目薬／笠原十兵衛薬局

筆者は朝夕にお世話になっております。



寒河江市の道の駅にて「きはだ(黄柏)」、「こくわ(小桑)」

寒河江市の葉山高原ではキハダ、小桑やリンゴのハチミツが販売されております。筆者は山形産の「キハダ入りハチミツ」を愛用しております。

(明治薬科大学理事長・名誉教授)

キリマンジャロ

登頂顛末記

南高12回卒 毛利 昭

稀代の作家ヘミングウェイにその美しさを称賛されたキリマンジャロが急激にその姿を変えつつ有るのみならず、人類の故郷とも言えるアフリカ大陸全体が危機に瀕している実態をレポートした記事を見た。温暖化などの影響で急激に環境が悪化している実態を捉えたレポートには、積雪量が減り頂上の氷雪が消えようとしているキリマンジャロの実態と、氷雪の厚さが30mもあったものが今では10m以下に縮んでいるという現状が語られ、野生動物は食料として供される為(ブッシュミートと呼ばれ密売されている)に激減し、ライオンなどは保護区でしか生息できず、野生本来の姿を目にした事のある現地人すら皆無に近いなどの実態が記されていた。急激な人口増加とそれに伴う都市化・計画性のない工業化・過剰な農業開発などによる森林伐採がその自然環境の劣化と消耗を促進させている現実はあるが、牧畜すらままならない人々に、「野生動物を捕ってはいけません」などと、誰が言えるのであろうか。

過去の経験は役に立たないとの認識が有ったからである。齢74歳を迎える歳でもあり週2回から3回程度のジム通いに加え、およそ7kg程の荷を負ってほぼ10kmの歩行訓練を開始した。これらの訓練を正月返上で取り組んだ成果は出たか見えなかったが、アフリカのサミットは甘いものではなかった。

行程はキリマンジャロ麓の村に宿泊した後は全てテントによる移動で、およそ4100mを登り切らなければならぬ。初日は登山道の入り口マチャメゲート(1800m)から5時間程度でマチャメキャンプ(3010m) 2泊目が6時間ほどの行程でシラキャンプ(3845m)など高度順化を図りながら3泊目バランゴ(3960m) 4泊目カラランゴ(4035m) 5泊目がバラフキャンプ(4640m)で、このキャンプがアタックキャンプになる。早めの夕食を済ませ仮眠を取って翌早朝0・30にテントを発った。ヘッドランプの明かりを頼りに岩場やガレた急坂を少しずつ高度を上げて行っていた。

最近ではヒマラヤをヘリコプターで往還している私にとって、過去の栄冠は役に立たないことを痛感させられた。

北には北斗七星やオリオンの星座が輝き、南にはサザンクロスが横たわっていた。この様な星空は赤道直下でしか経験できない天空の恵みなのかもしれない。その中をガイドやポーターが現地の唄を歌って励ましてくれる。

稜線で御来光を迎え第一のポイント・ステラ(5730m)に着いたのが午前7・30頃、そこでお茶の補給を受け山頂ウフル・ピーク(5895m)着が8・30頃であった。その頃になると寒さと高度障害で意識も朦朧としていたが、山頂プレートの前での集合写真はもとより氷河の写真やカメラに収め、アフリカ大陸に残した痕跡を確たるものとしてきた。しかし、本来は山頂で「般若心経」を読経する予定であったが、その行為すら忘れてしまうほど体力の消耗は大きかった。

を止めるほどではなかった。しかしこの頃になると、如何に訓練を積んだとは言え付け焼刃の域は脱しない体力づくりは破堤し、次第に歩行のバランスが崩れ転倒する危機に見舞われるようになった。そんな折、眼下にキャンプ地が見え、先行したポーターの人たちが建ててくれたテントに転がり込むことが出来た。夜来、雷鳴が轟きアラレがテントを打ち付けていたが、翌朝のキリマンジャロは真つ白に雪化粧していた。これが、ヘミングウェイが文にした「広く、大きく、高々と、信じがたいほど真白に陽光に輝いて、キリマンジャロの四角い頂上がそびえていた」そのものと感動した。

タンザニアの国立公園や動物保護区などはレンジャーによって守られているが、区域内でも密漁は横行しているとのことである。「アフリカは世界史から消えつつある大陸」と書いたのはワシントンポスト紙だが、私たちの意識からアフリカを消し去ってはならないと強く意識した旅でもあった。



南高三代縁ですね

南高14回卒 佐藤 守彦
(柔道部)

三人で写っている下の写真をご覧ください、老生に向かって左が28回卒(サッカー部)の松川裕和君、右が62回卒(柔道部)の松本洋平君、昨年の東京同窓会の一コマです。

なぜ歳の離れた三人が親子三代のように写っているかと言いますと、(株)守谷(もりたに)商会の社員とOB(老生の事)なのです、地元山形の企業や、公官庁は別にして、1,000人弱の一般企業で、同じ高校出身者が三人もいて、しかも三人共に「南高命」の面々が強い絆で結ばれている、他に類のない事だと大いに胸を張って良いのではないかと思います。何せ昨年の総会には写真の通り、老生の呼び掛けに応じ松川君は四国の高松から、松本君は大阪から駆けつけてくれたのです。

今回はこの二人に感謝の心を込めて、二人の紹介と老生との「縁」を先輩・後輩諸氏に知ってもらいたく筆を執りました。

その前に(株)守谷商会の事を少々宣伝させていただきます、東京駅八重洲口より数分の所に戦前より自社ビルを有し、東京製綱、明電舎の代理店として1901年(明治34年)にスタートした老舗の機械専門商社です。

総合商社のように巨大企業にはならなかったものの、16年間堅実にまじめに社員一丸となり信用第一の伝統を守り今日に至り、コマツやダイキンとの合弁会社を設立したり、地味ながらも内容の良い堅実経営の会社として評価を得ており、男・女学生共に人気が高く毎年かなりの競争で、入社が難しい会社と言われていると、詳しくはホームページをご覧ください。

松川裕和君(立教大卒)との事

老生がソウル支店に駐在(1977、1987年)中の1985年のある日、海外室長が来韓し、「守彦、この前山形に行ってお前の後輩で松川光宝堂という宝石店の次男坊の結婚式に出て来たぞ」と聞き、南高の後輩が同じ会社にいると言う事を初めて知ったのでした。

それ以来実に三十数年の付き合いになります、その後老生帰国し数年後の1993年、今度は松川君が何とマダガスカルに駐在することとなり、7年間政府の要人や悪徳商人(?)相手に奮闘大活躍をしたのです。恐らく南高のOBでマダガスカルに駐在した人は皆無かも知れませんが。機会を見て松川君の経験談を話してもらおうか、会報に書いてもらおうかしたいと思っております。

現在、四国支店(高松市)の支店長として四国を飛び回っております。

松本洋平君(福島大卒)との事

二年前の5月23日夜、突然携帯に南高14回柔道部の同期、柔道部OB会長の永澤兵國君より「守彦、お前の守谷商会后輩の松本洋平が内定もらって、いまここにいるから代わるぞ」といきなりの一声がスタートでした。

話によると、何と前日の5月22日に内定通知を受け、次の日の23日に山形での柔道部OBの飲み会に出席し、永澤会長に報告したところ「なぬ！守谷商会は守彦の会社だぞ」と、大騒ぎでその場での連絡となったわけですが。もしこの偶然が無ければ松本君の事を知るのは先の先になっていたでしょう。やはり「縁」があったと言う事でしょうね、何せ内定もらった次の日に知ったわけですから。

早速週明けの月曜日、人事部長に久しぶりに電話し「今回内定出した松本洋平君をよろしく頼むよ」と話したところ「守彦さん、なぜ知っているのですか」と「山形の名門山形南高の後輩でしかも柔道部の後輩だ、四国の松川も同じ高校だ」と言っただけで済んだ。すかさず「守彦さん、絶対他社に行かないようくれぐれもよろしく頼みますよ。トップクラスの評価で大いに期待していますので！」と逆に頼まれてしまった、「よし任せろ」と松本君を信じて引き受けた。その後無事入社してくれ老生の顔を立ててくれた。

現在大阪支店で大いに期待され修行中です(守谷商会は伝統的に新入社員は地方支店で修行することになっていきます)。

以上の様に二人が南高の後輩で偶然にも老生と同じ会社に入社した、と言う事は「縁」以外の何物でもありません。本当に「縁ですね」。

二人共数年後には東京に戻って来ます。必ずや東京同窓会の力になってくれると確信しております。

最後に現学校法人青山学院の堀田宣彌理事長は、守谷商会の社長を務めた方で、大変お世話になり現在も懇意にさせてもらっている先輩です。

合掌



(左)松川君、(右)松本君

第16回卒「十六夜会」 (いざよいかい)の活動

十六夜会事務局次長

南高16回卒 鬼島 康雄

貴会会長の毛利昭様より原稿依頼がありましたので、何かのご参考になればとの思いから、活動内容を記します。

私どもの会の名称は、南高第16回卒業にちなみ、「十六夜(いざよい)会」としています。

この会の名称は、昭和53年8月に、昭和17年から約三十年間にわたり生物を教えていただいた恩師の故布施隆先生が名付けてくださいました。恩師の故芳賀秀次郎先生に、「いい名前だね。」と言われたことを、昨日のこのように覚えています。

その後、毎年、懇親会を兼ねた総会を開催してまいりました。

「厄払い」は42歳、「九流し」は49歳の時に行いました。

特に、平成12年度に、同窓会の当番幹事学年として、第36回卒業生と合同で、約700名が参加する同窓会祝賀会を担当しました。

平成19年には「還暦祝い」を開催しました。

平成23年に規約の見直しを行い、平成24年度より、年会費2000円を徴収し、研修及び親睦を目的とした規約改正を行いました。

毎年7月の第一土曜日に40数名の

会員が参加し、研修会と懇親会を兼ねた定期総会を開催しています。

目的に研修という視点を設け、懇親会での情報交換も大切な研修ですが、総会の時に、議案検討がすべて終了してから、参加者の5、6名の方が5分前後で卓話を行い、研修に努めています。

さらには、慶弔規定を設けて、会員・奥様・実父母様の死去に際しては、弔意を表します。

活動内容は、4月に会報「十六夜(いざよい)」を発行しています。さらに、十六夜会総会と研修懇親会・ゴルフコンペ・本部同窓会への参加、訃報の連絡等です。

昨年は、卒業50周年と古希の節目の年に当たっていました。そのため、祝賀会を総会と併せて、天童ホテルにて1泊2日で開催しました。会員44名と恩師2名の参加がありました。

2日間の日程は次の通りです。

1日目 平成28年10月6日(木)

14:00 受付

15:00 十六夜会総会

17:45 記念写真撮影

18:00 南高卒業50周年古希祝賀会

20:30 お開き

20:45 二次会

2日目 平成28年10月7日(金)

07:00 朝食

10:00 最終チェックアウト

高校生当時の話に花が咲き、有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

「次回は、喜寿のお祝いだね。」「またな。」「元気でな。」などの会話を交わしながら旧交を温め、再会を誓いました。

卒業50周年を記念し「記念誌十六夜会」を発刊しました。内容は次のようなことです。

① 原稿は、平成24年からの28年までの5号分の会報原稿、当時の生活・趣味・学んだこと・考えていること・特技・仕事のことなど52本です。

② 写真は、クラスごとの卒業記念・修学旅行・南高祭・クラブ活動・設立総会・42歳厄払い・還暦を祝う会・50周年古希祝賀会・定例総会と懇親会・ゴルフコンペ等です。

見応え読み応えのある記念誌ができた、自負しております。

最後になりますが、山形県立山形南高等学校東京同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げペンをおきます。



表紙の毛利会長の挨拶にある「われら愛す」の歌詞と「芳賀秀次郎先生の詩碑」を紹介します。

3	2	1
われら愛す この国を 愛ありき われら歌う この国のたかきロマンを この国のひとのまことを われら進む かがやける たじろがず 空にみつ平和の祈り 地にひびく自由の誓い われら進む 日本をきよき未来よ かぐわしき夜明けの風よ	われら愛す ふかければこそ とおき青春 雲白かりき ひと直かりき おさなごのこと 明日を信じて われら進む	あつきおもいに われら愛す 信濃のやまべ 涙あふれて この水の青さよ われら歌う



海鳥の碑



なるわや三郎

南高28回卒 峯田 淳

28回の常任幹事として、どうにか出席だけでもというスタンスで、会長始め、皆様にはご迷惑をおかけしています。高校時代は部活もやっていないため、部活をやっていた方とは愛校精神に温度差もあり、さらに何十年も田舎との関りは希薄で、恐縮しながら参加させていただいているのが正直なところです。

ただ、思うところもあります。あと2年で還暦ということにはあまりピンときませんが、高校を卒業して今年で40年という月日には呆然とすることがあります。何に對してかという、関りが希薄なので、田舎での「居場所」がほとんどなかったことについて。地元で就職した同期と飲んだ記憶は大学時代まで。その後は仕事に追われ続けていたのか、田舎に帰るのは親戚の冠婚葬祭くらい。まるで記憶喪失のように田舎の記憶がすっぱりと抜け落ちていく。そんな時に、シヨッキングなお誘いをいただきました。小学校の恩師の小笠原良男先生から年明けに「小学校と中学校の同級生が君は何をやっているのかわからないし、いななことになっている。一度帰郷して何か話をしてくれないか」という。

かくも長き不在——そんな言葉が浮かびました。小笠原先生は南校9回卒で、山辺町立北山小学校の5、6年の時の担任。両親がいなかったこともあって、一方ならぬお世話になった恩人です。柄にもないと思いつながり恩返しもあるし、先生に逆らうことはできないのでお引き受けすることとし、5月、町立公民館でわざわざ駆けつけてくれた同級生のほか親戚までいる中で「マスコミはどんなところ」というテーマで、1時間半ほど拙い話をしました。勤務しているのは「日刊ゲンダイ」という夕刊紙。フリーランスで5年、社員として28年。ただ、同級生は夕刊紙とかマスコミといわれても、チンプンカンプンだったかもしれません。

そんなこともあって、今年は何かと田舎を意識した年になりました。9月に終了したNHKの朝ドラ「ひよっこ」。これにヒロイン谷田部みね子の叔父さん役で、峯田和伸という俳優が出てドラマ界ではかなり注目されています（本業はミュージシャン）。峯田和伸くんは山辺駅前にある「峯田電器」の息子。かつて紙面で「名字のルーツ」という連載をやったことがあり、名字の専門家の森山浩さんに原稿を依頼したら、開口一番、「峯田さんは福井ですか、山形ですか」と聞かれた。「峯田」は平家の落人だかが福井と山形に逃れた一族で、山形には一カ所にしかないという。

峯田は北山地区に固まってある名

字で、まだ「取材」できていないが、和伸くんもその流れに違いない。峯田電器の周辺には、当方の親戚のメリアス会社や分家の洋品店と精肉店もある。遡れば、同じルーツに行きつくはずなので、便宜上「一族」と言うことにしている。それやこれやで、山形で育ったという、存在の証のようなものを少しだけ感じることができた1年です。

最後にPRを。毎年、1冊づつ本を作っています。一年は「板東英二の生前葬」、昨年は「THE 芸能スキヤンダルー」。今年は芸能人や著名人にインタビュして連載している「おふくろメシ」で11月下旬に刊行予定。登場しているのは氷川きよしからサッカーの釜本邦茂まで80人ほどです。



有海さんを偲ぶ

小松栄三郎



有海さんは南高11回卒で、平成20年度から27年度まで8年間常任幹事を務められました。私も20年度に常任幹事になりましたので、いわば常任幹事の同期生同士の間柄でした。11回生に山形市教育長、南高校長を務められた大場登氏がおられます。この方は、県の教育庁におられたとき、山形弁を巧みに操るダニエル氏を県に招いた方なのですが、英語教育の全国理事会、PTA全国大会、千葉県高校長会の南高訪問等とおして、私と大場氏は親しくなりました。そのことを有海さんに話したところ、有海さんも大場氏と親しい間柄であることがわかり、有海さんに一層親しみを感じたのでした。

有海さんは優しい人でした。決して偉ぶらず、私たち後輩の意見によく耳を傾けてくださいました。新年会や暑気払いで若い人たちと積極的に意見交換をしてくださいました。しかし、火曜日に出ることが困難になられたので、金曜日に変更して欲しいと希望されました。私たちは有海さんのご希望に添えて、新年会と暑気払いを金曜日に変えたのですが、ほとんど出席なさらなかったのです。どうされたのか、と皆でいぶかっていたところ、「具合が悪いらしい」という話を耳にしました。しかし、もう手遅れでした。今年の1月22日に逝去されていたのです。東京同窓会をこよなく愛された有海さんに心より哀悼の意を表したいと思います。

同窓会を思うにあたって パートⅢ

南高12回卒 加嶋 隆夫

今回のテーマの前に私自身の事について述べてみたいと思います。

今年の2月をもって現役(仕事)を卒業する事になりました。ここにこの歳まで仕事をさせていただいた事と、見守ってくださった方々に感謝申し上げたいと思っております。現在はまったくとした日々を過ごさせて頂いております。仕事を卒業されたすべての方々がこのように感じ感謝の念を持ってこられたであろうと思っております。こんな折、人と人との係り(交流)を愛しく思い、いろんな場所や人々との交わりが恋しくなるのは皆さんも同じだと思います。

私はいろんな方々との交流が苦手ではなく、結構おじゃま虫的な人懐っこい性分を持っていると思っております。そのため、退職した後も数多くの友人からのお誘いがあり、楽しく参加させて頂いております。

内容を申し上げますと、同期会、県人会、同好会など折に触れたイベントや講演会、鑑賞会などに楽しく参加させていただいております。そんな状況の中で、今回のテーマに戻りたいと思います。

前々回でも述べました様に、私がこの東京同窓会を盛り上げ、継続さ

せていくために、私ができることは何なのか、どう活動すべきなのかを考えて参りました。一方で、私の使命でもなろうか考える今日この頃です。しかし、只単にこの会を盛り上げるといっても、運営するにあたっては活動の原資たる財源がなければなりません。そういうものが担保されて始めて会の運営ができてくるものと考えております。

前号の会報にも載っていた通り、我が仲間の片桐秀昭氏が、本同窓会に百万円もの大金を寄附して頂きました。片桐氏とは卒業年度も一緒に、私的な交際も続けさせて頂いておりますが、中々まねのできる事ではなく、仲間としても誇れる行為であります。ここに改めて感謝の念を文書に残したいと考えております。寄附頂いた浄財は大切にかつ有効に活用させて頂くこともここに約束したいと思っております。また、今後の会の運営を考えれば、同窓会の皆様一人一人が互いに支え合って、会を守り受け継いでいってほしいものです。私は南高人としてだけではなく、山形県人としての繋がりもあり、その人脈を活かした広報活動も展開しております。今後とも山形県東京事務所の方々と連携し、県人連合会の加盟団体としても積極的に交流し、山形南高東京同窓会の存在を知らしめ交流の輪を拡げるとともに、様々な情報の共有を図っていききたいと思っております。

山形県人会の中において、南高東

やまがた県人まつり (山形県人東京連合会)

山形南高東京同窓会として代表が参加

平成29年9月3日(日) 11時~ホテル・ニューオータニ「鶴の間」にて開催

今年も900名が参加し盛大に開催されたが、加嶋隆夫さん(南高12回)のご尽力により、山形南高東京同窓会のブースを確保。

南高OBはもとより、各県立高の東京同窓会のメンバーとの交流も拡げることができました。



芸能委員会・副委員長
加嶋隆夫さん(南高12回)



県立高校同窓会長の固い握手



山形南高&東高と仲良く



山形南高同窓会メンバー



県観光振興室・八矢一博さんと



来賓・山形放送・取締役東京支社社長
齊藤繁也さん(南高25回)

京同窓会に対する認識も増えてきたと感じております。また、この事が会員増対策にも役立っております。新しい会員を増やすことも大切ですが、戻ってくる人も大切にしなければならぬと考えております。

山形県人会との連携を含めた情報を皆様にお伝えするのも私の役割と考え、今後とも投稿を続けていく予定ですので、楽しみにしていってください。

平成28年度総会

平成28年11月5日(土) 14:20〜アルカディア市ヶ谷にて開催

第一部



東京同窓会毛利会長の挨拶により議事進行



平成28年度活動報告・平成29年度活動方針
小松副会長



平成28年度収支決算報告・平成29年度収支予算案報告
鈴木常任幹事



会計監査報告
久連山会計監査

ビジネス交流 1 今日の書道について



日本書写技能検定協会専務理事
片桐秀昭氏(南高12回)

ビジネス交流 2 公立高等学校における情報発信による経営



元千葉県立成田北高等学校長
小松栄三郎氏(南高15回)



メンバー紹介



常任幹事メンバー



荒井会長のエール



応援歌「空はコバルト」



閉会挨拶・万歳三唱



万歳三唱



還暦の同期(南高25回)と毛利会長

暑気払い

平成29年6月16日(金)18:30～
アルカディア市ヶ谷にて
30名が集う!



乾杯ご発声
(吉野さん南高3回卒)



山形での同窓会総会の模様が伝えられた



毛利会長挨拶



手締めの伝授



応援歌「空はコバルト」を元気いっぱい歌う

笠原 健 税理士
(南高34回卒)



池袋駅西武口より徒歩5分、南池袋東通り沿いのビルの二階に笠原会計事務所はありました。

税理士・笠原健さんは、山辺中学出身の南高34回卒。南高では、野球部の左翼手・一番打者、チームのリードオフマンとして活躍。東京の大学を卒業後、家業を継ぐ予定で父の商いを手伝うが、親族経営の承継の難しさに挫折した。27歳の時に再び上京し、個人税理士事務所と中規模税理士法人の勤務を経て、平成21年7月、笠原会計事務所開設。

南高野球部時代、当時東京遠征でお世話になった東京同窓会の斎藤前会長からの要請により常任幹事に就任。昨年度までの8年間、常任幹事



南高1年 野球部の同期と(昭和56年5月)



趣味のゴルフ。ナイスショット!

の任を全うしていただきました。東京同窓会では、「ビジネス交流」等での人脈形成により先輩方の面倒見の良さと温かさに接し感謝の想いで一杯のことです。社会的にも脂ののった51歳、多忙な業務に専念するため、今後は側面より東京同窓会を支えて戴きます。訪問者・土田和男(南高25回卒)

平成29年7月15日(土)14:00 ~ 東京ドーム

第88回都市対抗野球大会、きらやか銀行(山形市)の応援に駆け付ける。

ホンダ鈴鹿(鈴鹿市)に2対3と惜敗するが、2年連続の出場で善戦。

応援団もファーストステージ応援団トップ賞に選ばれた。郷土色豊かな応援と、スポーツ県民歌「月山の雪」を大合唱してスタンド一体でチームを鼓舞したことが評価された。



スコアボード



花笠音頭



きらやか銀行応援団



応援隊反省会



山形南高応援隊



山形南高応援隊

ふるさと山形代表きらやか銀行 応援!

物 故 者 名

(平成28年9月～29年8月判明分)



(旧職員名)		(在任期間)	
佐々木 周榮 先生	数学	(S46.4～S56.3)	平成29年3月18日
	元校長	(H3.4～H5.3)	

回卒	同窓会員名	
二中1回	菊地 弘	平成29年9月9日
二中2回	小原 久男	平成29年9月27日
二中4回	吉田 和夫	平成29年2月24日
二中4回	佐藤 淳一	命日不明
二中4回	鎌田 寛	平成29年6月
二中5回	嵯川 俊則	平成28年8月18日
二中5回	武田 毅	平成28年9月5日
南高1回	栗原 康一郎	平成28年3月17日
南高2回	粕谷 恒夫	平成28年12月24日
南高2回	豊嶋 真之	平成28年期日不明
南高2回	阿部 孝彦	平成29年3月25日
南高2回	矢萩 睦夫	平成29年7月9日
南高2回	江口 英世	平成29年8月5日
南高2回	廣瀬 貞夫	平成29年8月27日
南高3回	武田 忠	平成28年5月17日
南高3回	縄野 健一	平成28年10月1日
南高3回	馬場 信親	平成29年1月21日
南高3回	川崎 勝美	平成29年2月10日
南高3回	東海林 祐一郎	平成29年4月29日
南高3回	佐々木利夫	命日不明
南高3回	中井川秀男	平成22年期日不明
南高4回	遠藤 清一	平成29年1月27日
南高4回	石森 敏弘	平成29年5月10日
南高4回	永井 浩	平成29年8月31日
南高4回	井上 静治	平成28年期日不明
南高5回	石川 路規	平成29年4月10日
南高5回	鹿野 靖男	平成29年6月2日
南高6回	佐藤 顕一郎	平成29年6月15日
南高6回	川崎 勝美	平成29年2月10日
南高7回	原田(佐藤)統治	平成28年9月15日
南高7回	早坂 仁作	平成28年10月23日
南高7回	岡崎 忠興	平成29年4月19日
南高8回	小国 恵正	平成28年5月
南高8回	後藤 清弥	平成28年9月29日
南高8回	斎藤 昌助	平成29年4月25日
南高8回	逸見 芳雄	平成29年8月27日
南高8回	津田 力	平成28年3月
南高8回	横山 武史	命日不明

回卒	同窓会員名	
南高9回	川口 東介	平成28年10月20日
南高9回	佐藤 幸夫	平成28年11月23日
南高9回	久永 幸一	平成29年3月18日
南高9回	亀井 英二	平成29年4月22日
南高9回	澁谷 昭一	平成29年5月19日
南高11回	石井 武	平成28年1月14日
南高11回	藁谷 淳一	平成28年9月4日
南高11回	奥山 俊彦	平成28年12月12日
南高11回	江口 泰夫	平成29年5月30日
南高11回	有海 豊	平成29年1月22日
南高11回	山崎(庄司)進	平成29年7月9日
南高12回	加藤 盛一	命日不明
南高13回	佐久間 融	平成28年6月20日
南高13回	丹野 茂美	平成29年5月24日
南高14回	矢作 喜勇	平成28年9月6日
南高14回	山内 利夫	平成29年7月21日
南高15回	渡辺 純夫	平成28年11月14日
南高15回	内和 勲	平成29年1月
南高16回	小林(安達)喜四郎	平成28年9月26日
南高16回	木村 俊夫	平成28年9月29日
南高16回	中村 成公	平成28年10月5日
南高16回	秋葉 一裕	平成28年11月12日
南高16回	榊原 清一	平成29年6月27日
南高17回	下山 博	平成29年5月4日
南高17回	太田 孝三	平成26年4月17日
南高20回	山口 恭彦	平成29年2月8日
南高20回	加嶋 勉	平成29年5月20日
南高20回	稲田 日出雄	平成29年8月12日
南高21回	齊藤 義昭	平成27年3月29日
南高21回	相原 吉弘	平成28年9月3日
南高22回	木内 慎一郎	平成29年5月27日
南高26回	半田 満	平成27年期日不明
南高27回	笹原 浩次	平成28年5月13日
南高27回	渡辺 信也	平成28年10月26日
南高29回	高橋 浩一	平成28年12月20日
南高30回	吉田 浩	平成29年5月29日
南高33回	黒木 信	平成28年7月28日
南高34回	仲野 誠	平成28年10月8日

29年度役員紹介

Table of board members including roles like 会長 (Chairman), 副会長 (Vice Chairman), 会計監査 (Accounting Auditor), and 顧問 (Advisor) with names and terms.

◇平成28年度にいただいた寄付の内訳

Summary table of donations for Heisei 28, listing categories like 来賓祝い金 (Guest Welcome Money), 会員寄付 (Member Donation), and 幹事会 (Executive Meeting).

Table of donors for Heisei 28, listing names and their terms (e.g., 清野 志紀様, 村山 鎮雄様).

平成28年度会計報告

山形南高東京同窓会 平成28年度 収支決算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

Income Statement (Income) table for Heisei 28, showing items like 総会会費 (General Meeting Fee), 年会費 (Annual Fee), and 寄付金 (Donation).

Income Statement (Expenses) table for Heisei 28, showing items like 会場使用料 (Venue Fee), 懇親会経費 (Networking Expense), and 会議費 (Meeting Fee).

次年度繰越(収入合計-支出合計): 531,880円

山形南高東京同窓会 特別積立金 平成28年度 収支決算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

Income Statement (Income) table for Special Reserve Fund, showing items like 前期繰越金 (Previous Period Carryover) and 寄付金 (Donation).

Income Statement (Expenses) table for Special Reserve Fund, showing items like 母校貢献策 (Alumni Contribution Strategy) and 一般会計への補填 (Supplement to General Accounting).

次年度繰越(収入合計-支出合計): 461,660円

篤志家のご寄附のお願い

東京同窓会の活動費のためにご寄附くださる方々を募集しております。郵便局の次の口座までご送金くださいますようお願い申し上げます。口座名: 山形南高東京同窓会東京支部 口座記号番号: 00110-7-581420

山形県東京事務所HP
山形県の情報や首都圏イベント情報を掲載！



山形県東京事務所 Facebook & Twitter
旬の首都圏イベントを随時発信！



東京で味わう山形の食

山形県アンテナショップ「おいしい山形プラザ」
<http://oishii-yamagata.jp/>

パートナーショップ
<http://oishii-yamagata.jp/p-shop/>

◀このステッカーが目印です
 パートナーショップ各店では山形の郷土料理、山形の旬の食材を使った料理をご堪能いただいたり、山形ならではの商品をお買い求めいただけます。ぜひご来店ください。



<http://www.yamanan.jp>

山形南高東京同窓会 HP(ホームページ)オープン!!
最新の情報はこちらで~!

うれしいお知らせです! ▶ バナー広告を無料掲載いたします。

東京同窓会のHPを情報発信基地として、卒業生を応援します!
 各学年の同窓会、自社・作品・公演・趣味などの紹介、情報交流にお役立てください。

問い合わせ先: info@yamanan.jp (村岡登氏・南高25回)

東京同窓会「来年度の会合開催予定」決定!

会場: アルカディア市ヶ谷

- 平成30年1月19日(金)18:30~新年会
- 平成30年6月22日(金)18:30~暑気払い会
- 平成30年11月4日(日)14:20~総会・懇親会

お申し込みは、こちら!!

東京同窓会から会報誌へのお願い

皆さん参加の会報誌です。

現在の状況や南高時代の思い出等、原稿を募集中です。
 1,000字~2,000字 写真も添付してください。

受付窓口: 土田和男(南高25回)までご連絡ください。
 〒187-0032 東京都小平市小川町1-888-5
 携帯番号: 090-1508-1713
 メールでの寄稿もお待ちしております。
 kazuotsuchida@jcom.home.ne.jp

■東京同窓会報の題字

昨年11月の総会終了後、片桐秀昭さんに東京同窓会報の題字をお願いしたところ、快くお引き受けいただき、今号の第十四号より使わせていただきました。

この場をお借りして御礼申し上げます。

あとがき

本年1月に60歳定年を迎え、継続雇用によりシニア社員として頑張っております。が、現在ベストセラーの「定年後」に、「同窓会の効用」が紹介されていた。同窓会に出ると脳が活性化されるといふもの。若い時の感動を思い出す。若くは、副交感神経が活発になるので健康にもいいとのこと。永年サラリーマンの人生を歩んできて定年後の人生をどう生きるかの問いに、東京同窓会の皆様との触れ合いの中に答えを見出せると感じております。先輩方の生き方を非常に参考となり、南高魂を呼び起こして元気をいただきました。

昨年、常任幹事として広報の任を戴き写真撮影用としてデジタルカメラを買いましたが、吉野先輩(南高3回)よりもっといいカメラを使えと言われた。常任幹事の村岡さんと山田さんの画像を使わせていただきました。今年は何とかが出来た。元氣な姿を記録に残して参ります。

(土田和男)